



「春を待つ」

2000年

第74回国展入選

「春を待つ」

片 岸 法 恵

【HARU WO MATU】 Norie Katagisi

I. 制作目的

- ・現在、日常着として着物を着る事が、非常に少なくなっている。
- ・しかし、着物は手入れを怠らなければ、親・子・孫、代々受け継いでゆける物であるし、体型も極端に変わらなければ、多少のことは許容してしまう。
- ・着馴れると、日常のことにも不便は感じない。
- ・これらのことから、もっと多くの人に着物の良さを見直し、日常着として着てもらうことを目的として、縞の紬の着尺を制作した。
- ・糸の染色には、身近にある植物を中心に使用した。

II. デザイン

- 春になり芽吹き始めた野山をイメージする色使いで、幅広い年齢層に対応する縞のデザインとする。

III. データ

○使用糸

経 糸・28中7本片 (200デニール)
緯 糸・玉糸

○使用箆

鯨尺1寸に55目、両羽で使用

○糸染め

経 糸・タ マ ネ ギ……………アルミ媒染
・現 の 証 扱……………錫 媒 染
・一 位……………銅 媒 染
・く り……………鉄 媒 染
・背 高 泡 立 草……………アルミ媒染
・う こ ん……………無 媒 染

緯 糸・く ち な し……………鉄 媒 染
・き は だ……………鉄 媒 染